理学療法科 PT22A，PT23A，PT24A

分野	教育内容	特記	必修選択	授業科目	区分	単位数	科目時間	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活情報リテラシー 管理情報と経営情報と人間 情報と社会		必修	コンピュータ演習	演習	2	30	30					
			必修	医学英語	講義	1	30		30				
			必修	統計学・研究法	講義	2	30				30		
			必修	人間発達学	講義	2	30	30					
			必修	トレーニング論Ⅰ	実技	2	30			30			
			必修	トレーニング論Ⅱ	実技	2	30				30		
			必修	障害者スポーツ概論Ⅰ	実技	1	30	30					
			必修	障害者スポーツ概論Ⅱ	実技	1	30		30				
			必修	生活環境論	講義	1	30	30					
専門基礎Ⅰ	人体の構造と機能 及び心身の発達		必修	解剖・生理Ⅰ（骨・筋）	講義	2	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅰ演習（骨・筋）	演習	1	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅱ（神経・感覚器）	講義	2	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅱ演習（神経・感覚器）	演習	1	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅲ（内臓諸器官）	講義	2	60		60				
			必修	解剖・生理Ⅲ演習（内臓諸器官）	演習	1	60		60				
			必修	運動学Ⅰ	講義	1	30		30				
			必修	運動学Ⅱ	講義	2	30			30			
専門基礎Ⅱ	疾病と傷害の 成り立ち及び 回復過程の促進		必修	生化学と栄養	講義	1	30		30				
			必修	臨床心理学	講義	1	30						30
			必修	精神医学	講義	1	30						30
			必修	整形外科学	講義	2	30			30			
			必修	神経内科学	講義	2	30			30			
			必修	治療技術（実技）	実技	2	60				60		
			必修	頚損・脊損	講義	1	30			30			
			必修	救急救命医学・画像診断学	演習	2	30				30		
			必修	医学概論	講義	2	30			30			
専門基礎Ⅲ	保健医療福祉と ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念		必修	リハビリテーション医学概論	講義	2	30	30					
			必修	チーム連携	講義	2	30				30		
専門Ⅰ	基礎理学療法学		必修	理学療法概論	講義	2	30	30					
			必修	日常生活動作学	講義	2	30		30				
			必修	病態運動学	講義	2	30				30		
専門Ⅱ	理学療法管理学		必修	理学療法管理学	講義	2	30				30		
専門Ⅲ	理学療法評価学		必修	検査・測定法Ⅰ（関節）	実技	1	60		60				
			必修	検査・測定法Ⅱ（筋）	実技	1	60		60				
			必修	検査・測定法Ⅲ（神経）	実技	1	60			60			
			必修	検査・測定法Ⅳ（動作分析）	演習	1	60			60			
			必修	検査測定演習（認定実技試験）	実技	1	30		30				
			必修	理学療法総合演習（認定実技試験）	実技	1	30				30		
			必修	理学療法総合評価学（画像・評価学）	演習	1	30						30
専門Ⅳ	理学療法治療学		必修	物理療法学	講義	1	30			30			
			必修	物理療法学演習	演習	1	30			30			
			必修	義肢装具学Ⅰ	講義	1	30			30			
			必修	義肢装具学Ⅱ	講義	1	30				30		
			必修	運動器理学療法学	講義	2	30				30		
			必修	運動器理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	神経障害理学療法学	講義	1	30				30		
			必修	神経障害理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	内部障害理学療法学	講義	1	30				30		
			必修	小児理学療法学	講義	1	30			30			
			必修	内部障害理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	総合理学療法Ⅰ	講義	4	120						120
			必修	総合理学療法Ⅱ	講義	4	120						120
専門Ⅴ	地域理学療法学		必修	地域リハビリテーション	講義	1	30	30					
			必修	地域包括ケア	講義	1	30		30				
			必修	地域イノベーション論	演習	1	30			30			
専門Ⅵ	臨床実習		必修	臨床実習Ⅰ（1週）	実習	1	45	45					
			必修	臨床実習Ⅱ（3週）	実習	3	135		135				
			必修	臨床実習Ⅲ（8週）	実習	8	360				360		
			必修	臨床実習Ⅳ（10週）	実習	10	450					450	

シラバス（授業計画書）

科目名（　臨床心理学　　）

学科名　　理学療法　科

学年　　３　年

１　授業の内容

人の心の仕組み，ストレスを感じた際の心の動き，心理学の歴史，人間の発達について等を学んでいきます。

２　到達目標

心理学の基礎知識の獲得，定着（国家試験に向けて），患者さんとのコミュニケーションについて理解を深める。

３　授業の方法

講義を中心に小テストや動画を用いた学習を実施します。

４　成績評価方法・基準

定期試験 100％

５　評価の際の特記事項

特になし

６　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

まとめプリントを渡すので，その復習を行ってください。

７　使用教材，教具

よくわかる臨床心理学　改定新版/下山晴彦編　ミネルヴァ書房

８　学生へのメッセージ

心理学はとても奥深い学問です。ぜひ興味をもって積極的に学んでください。一緒に頑張りましょう。

９　教員氏名　　　（　田中　努　）

所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　　）

実務経験の詳細（　病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　臨床心理学　）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	面接の基本的技法
3	防衛機制(反動形成，合理化，投影など)
4	防衛機制(打消し，知性化，逃避など)
5	防衛機制　まとめ
6	心理療法について
7	心理療法の技法について
8	行動療法について
9	心理療法　まとめ
10	心理検査について
11	心理検査の実際
12	Erikson のライフサイクル論
13	臨床心理学の国家試験対策
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　　　　精神医学　　　　　　）

学科名　　　理学療法科
学年　　３年

１　授業の内容
本講では,精神医学的問題を抱える人への援助についての基礎的知識を理解することを目的とする。総論として，精神医学の歴史，精神保健福祉制度，精神症状の評価法及び検査法について学ぶ。各論として，主要な精神障害の病態，原因，治療に関する知識を習得する。

２　到達目標
各授業でとりあげる精神障害について，具体的なイメージを持ちながら説明することができる。またその理解を基に，医療従事者として精神医学的問題をもつ人と関わる際に注意すべき点をあげることができる。

３　授業の方法
PC プロジェクタを使用したパワーポイントによる講義の他，講義内容に関連する映像資料を使用して実施する。

４　成績評価方法・基準
定期試験　100％

５　評価の際の特記事項
授業態度，積極性も加味して総合的に評価します。

６　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業で配付している資料に関する復習をすることにより知識の定着を図ること。

７　使用教材，教具
上野武治編「標準理学療法学・作業療法学　精神医学（第４版）」医学書院

８　学生へのメッセージ
みなさんは「精神障害」という言葉からどのようなことを思い浮かべるでしょうか。なかなか想像がつかない部分が多いのではないでしょうか。講義ではできるだけ具体的なイメージを持てるよう工夫していきたいと思います。この講義を通して精神障害への理解が深まり，対人援助職として働く際の一助となることを願っています。

９　教員氏名　　　　（　川原　洋一、応戸　絵奈　）
所　　属　　　　（　川原：こころ医療福祉専門学校　応戸：医療法人カメリア大村共立病院　）
実務経験の詳細　（　両名とも病院にて臨床心理士または理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（　精神医学　　）

回数	授業内容
1	精神医学とは―精神医学の歴史，リハビリテーション科における精神医学
2	精神科保健医療と福祉・精神症状の評価
3	神経症性障害・心身症
4	生理的障害および身体的要因に関連した障害
5	気分（感情）障害（１）
6	気分（感情）障害（２）
7	統合失調症およびその関連障害（１）－統合失調症の特徴
8	統合失調症およびその関連障害（２）－治療と援助
9	器質性精神障害（１）－認知症
10	アルコール関連障害・薬物依存による精神障害
11	てんかん
12	高次脳機能障害
13	ライフサイクルにおける精神医学（１）－小児期・青年期
14	ライフサイクルにおける精神医学（２）－成人期・老年期
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　理学療法総合評価学　（画像・評価学）　　）

学科名　　理学療法科

学年　３年

1　授業の内容

正常・異常画像を読んで、そこから疾患を学ぶ　(X-p・CT・MRI・エコーなど)

2　到達目標

画像から評価・疾患を考えることができる

国家試験問題の画像を解くことができる

3　授業の方法

適宜スライド・画像を提示する

4　成績評価方法・基準

定期試験１００％

5　評価の際の特記事項

画像から病名・症状を理解し、一般的な理学療法を説明できること。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

多くの画像を図書室の書籍やインターネット等を利用し見ること

7　使用教材，教具

画像評価　医学書院

8　学生へのメッセージ

まずは正常画像をしっかりと見ることができるようになり、各疾患の典型画像を覚えていきましょう

9　教員氏名（　松永祐樹　）

所　属（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　）

実務経験の詳細（　病院にて理学療法士として勤務　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　理学療法総合評価学　（画像・評価学）　）

回数	授業内容
1	画像総論
2	整形外科画像総論
3	整形外科画像（上肢）
4	整形外科画像（下肢）
5	整形外科画像（脊柱）
6	脳画像（MRI）
7	脳画像（CT）
8	脳画像（まとめ）
9	内科画像（胸部）
10	内科画像（腹部）
11	小テスト　解説
12	整形外科、脳画像からの疾患別①
13	整形外科、脳画像からの疾患別②
14	まとめ
15	定期試験
16	まとめ・試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　運動器理学療法学演習　）

学科名　　理学療法科
学年　３年

1　授業の内容
骨・関節疾患についてそれぞれの項目に対して，疾患の概要とそれに則した評価・治療の実際について概説する。

2　到達目標
骨・関節疾患に対して適切な検査・測定を実施でき，臨床推論に基づいて問題点と解決策を考えられるようになる。

3　授業の方法
講義の他，必要に応じて実技を実施する。また適宜小テストも実施する。

4　成績評価方法・基準
筆記試験：100%

5　評価の際の特記事項
特になし

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業進度計画に沿って，事前に予習・復習をしてくること。

7　使用教材，教具
運動器障害理学療法学テキスト．MEDICALVIEW

8　学生へのメッセージ
運動器疾患は臨床現場において，ほぼ必ず遭遇します。また，臨床実習や国家試験においても必須の科目です。本科目を通して各疾患の病態と，それに則した理学療法の実施について学びます。

9　教員氏名　　　（　松永祐樹　　　　　　　　　　　　）
所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　）
実務経験の詳細（　病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（　運動器理学療法学演習　）

回数	授業内容
1	運動器疾患に対する理学療法の概論・運動器系障害総論
2	組織の治癒に関する総論・痛みと理学療法
3	変形性膝関節症の病態・評価
4	変形性股関節症の病態・評価
5	変形性脊椎症・腰痛症の病態・評価
6	脱臼の病態・評価
7	大腿骨頸部骨折・転子部骨折の病態・評価
8	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折の病態・評価
9	脊椎圧迫骨折・その他骨折の病態・評価
10	肩関節周囲炎・胸郭出口症候群の病態・評価
11	関節リウマチの病態・評価
12	筋・軟部組織損傷の病態・評価
13	スポーツ障害の病態・評価
14	運動器理学療法のまとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名(　　　　　　　　　　神経障害理学療法学演習　　　　　　　　　)

学科名　　理学療法科

学年　　３年

1　授業の概要

神経障害理学療法学の授業と関連した内容の授業を行いながら，国家試験対策を実施していく

2　到達目標

関連用語，専門用語の理解を深め，それが説明できるように学習を進めていく。そして，授業を通して中枢神経障害患者の疾患や症状等がイメージでき，症状に対する予測やリスク管理等が行えるようになる。

3　授業の方法

教科書を使用した講義，実技を行い，その後，確認のための国家試験問題を解説する。

4　成績評価方法・基準

定期試験　　１００％

5　評価の際の特記事項

ファイルや参考資料をいつでも見直せるように綺麗に整理しましょう。

6　授業時間外学習

解剖学等で学習した脳の基礎的な構造等を復習しておくこと。理解度を促進するためにも授業毎に授業内容の復習を行うこと。

7　使用教材，教具

今まで使用した神経系の教科書・国家試験問題集

8　学生へのメッセージ

これまで学習した神経障害理学療法学や解剖学・生理学などの基礎的な知識の理解をもう一度深めていきましょう。

9　教員氏名（　田中努　）

所　属（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　）

実務経験の詳細（　病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(　　　神経障害理学療法演習　　　)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	脳血管障害
3	脳血管障害の理学療法
4	高次脳機能障害
5	高次脳機能障害の理学療法
6	変性疾患
7	変性疾患の理学療法
8	嚥下障害
9	正常圧水頭症
10	脱髄性疾患
11	末梢神経障害
12	末梢神経障害の理学療法
13	筋疾患
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

別紙２

シラバス（授業計画書）

科目名(　　　内部障害理学療法学演習　　　)

学科名　　理学療法科

学年　　３年

１．授業の概要

循環器・代謝障害、呼吸器障害について教科書や演習問題を使用し、国家試験対策向けた学修を行う。

２．到達目標

内部疾患患者に対し治療・訓練を実施する際のリスク管理、患者の変化の観察ポイントを説明でき、実際の評価、プログラムの立案ができるように演習を行う。

３　授業の方法

教科書を使用した講義と国家試験の問題を使用し演習を行う。

４　成績評価方法・基準

定期試験　　１００％

５　評価の際の特記事項

振り返りができるように資料を整理し、まとめてください。

６　授業時間外学習

シラバスに沿って事前に授業で行われる内容は予習をしておくように。

授業ごとの病態と運動療法を復習し、理学療法評価、治療を理解するように。

７　使用教材，教具

シンプル理学療法シリーズ「内部障害理学療法学テキスト」（改訂第３版）南江堂

８　学生へのメッセージ

内部疾患を持つ患者は増加しています。臨床現場で実際に対応できるように、知識。理学療法技術を習得できるように頑張りましょう。

９　教員氏名(　三根　立己　)

所　　属(　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　)

実務経験の詳細（　病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(　　　内部障害理学療法演習　　　)

回数	授業内容
1	循環器の解剖生理
2	病態の理解①（肥大型心筋症･大動脈解離）
3	病態の理解②（心不全、心筋梗塞）
4	心電図の診かた（理学療法評価）
5	心肺負荷試験
6	呼吸器の解剖生理
7	呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎等）
8	呼吸器疾患（肺水腫、肺腫瘍等）
9	呼吸理学療法の基礎
10	腎障害の理学療法
11	代謝障害の理学療法
12	糖尿病の理学療法
13	がんの理学療法
14	画像診断（CT･MRI）
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　総合理学療法Ⅰ　）

学科名　　理学療法科
学年　3年

1　授業の内容
これまで科目別に学んだ専門基礎分野・臨床医学・PT専門分野について，理学療法に役立つ知識として統合する。

2　到達目標
理学療法士養成校の学生が卒業するまでに学修すべき医学・専門分野についての重要事項を分類し理解できる。

3　授業の方法
授業毎の課題に応じ，パソコンでの文献検索・図書室での自主学習を行い，その後解説・ディスカッションを行う。

4　成績評価方法・基準
定期試験　100%

5　評価の際の特記事項
特になし

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業進度計画に沿って，事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7　使用教材，教具
1年から3年までに使用したすべての教科書及び資料

8　学生へのメッセージ
より深い理解のために，自ら積極的に学んで下さい。国家試験に向けた学修でもあり，その後の臨床に向けた学修でもあります。たくさんの知識を習得してください。

9　教員氏名　（　三根立己　山口浩司　松本真一郎　）
所　属　（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　）
実務経験の詳細（　全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（　総合理学療法Ⅰ　）

回数	授業内容
1	脳梗塞　小テスト　解説
2	脳梗塞　演習
3	変形性膝関節症　小テスト　解説
4	変形性膝関節症　演習
5	脳出血　演習
6	脳出血　小テスト　解説
7	変形性股関節症　小テスト　解説
8	変形性股関節症　演習
9	心筋梗塞　小テスト　解説
10	心筋梗塞　演習
11	大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折　小テスト　解説
12	大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折　演習
13	心不全　小テスト　解説
14	心不全　演習
15	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折　小テスト　解説
16	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折　演習
17	肺炎　小テスト　解説
18	肺炎　演習
19	脱臼・肩関節周囲炎・胸郭出口症候群　小テスト　解説
20	脱臼・肩関節周囲炎・胸郭出口症候群　演習
21	COPD　小テスト　解説
22	COPD　演習
23	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症　小テスト　解説
24	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症　演習
25	神経筋疾患　小テスト　解説
26	神経筋疾患　演習
27	心理（心理発達・心理検査）
28	心理（心理療法・面接）
29	糖尿病　小テスト　解説
30	糖尿病　演習
31	心理（自我・防衛機制・障害受容）
32	心理（その他）
33	高齢者疾患　小テスト解説
34	高齢者疾患　演習
35	関節リウマチ　小テスト　解説

36	関節リウマチ　演習
37	消化器疾患　小テスト　解説
38	消化器疾患　演習
39	骨粗鬆症・切断・熱傷　小テスト　解説
40	骨粗鬆症・切断・熱傷　演習
41	筋ジストロフィー　小テスト　解説
42	筋ジストロフィー　演習
43	精神医学（統合失調症）
44	精神医学（気分障害）
45	臨床心理　小テスト　解説
46	臨床心理　演習
47	精神医学（認知症・アルツハイマー病）
48	精神医学（てんかん・依存症・適応障害など）
49	精神医学　小テスト　解説
50	精神医学　演習
51	スポーツ障害・骨端症　小テスト　解説
52	スポーツ障害・骨端症　演習
53	脳血管疾患画像　小テスト　解説
54	脳血管疾患画像　演習
55	整形疾患画像　小テスト　解説
56	整形疾患画像　演習
57	胸部画像　小テスト　解説
58	胸部画像　演習
59	定期試験
60	試験解説(内科系)
61	試験解説（整形外科系）

シラバス（授業計画書）

科目名（　　総合理学療法Ⅱ　　　）

学科名　　理学療法　科
学年　　３年

１　授業の内容
　これまで科目別に学んだ専門基礎分野　解剖学，生理学，運動学，人間発達学について理学療法に役立つ知識として統合する。

２　到達目標
　理学療法士養成校の学生が卒業するまでに学修すべき専門分野についての重要事項を分類し理解し，臨床に対応できるようにする。

３　授業の方法
　臨床実習で身に付けた専門職としての心構え，マナー，理学療法士に必要な知識，技術をさらに磨きをかけるために，調べ学習＆内容のセアリングを通して共有化できるように進めていきます。

４　成績評価方法・基準
　定期試験　100％

５　評価の際の特記事項
　フアイルをいつでも見直せるように綺麗に整理しましょう。

６　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
　事前学習，調べ学習，事後学習は基本に戻って教科書で行ってください。

７　使用教材，教具
　＜参考図書＞　メディックメディア：クエスチョン・バンク　共通問題
　　　　　　　　国家試験必修ポイント　基礎医学

８　学生へのメッセージ
　座学で課題を知り，自学で課題を検索し，他者の意見に傾聴し，自分の考えを伝えることができるように，国家試験，就職後に必要な知識習得を目指します。

９　教員氏名　　　（　　大石勝規　　松本真一郎　　川原洋一　　　　）
　　所　　属　　　（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　　　　　）
　　実務経験の詳細（　全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項
　　実務経験のある教員による授業科目

科目名（　総合理学療法Ⅱ　）

回数	授業内容
1	国家試験について　過去三科目試験（解剖）
2	国家試験について　過去三科目試験（生理）
3	国家試験について　過去三科目試験（運動学）
4	国家試験について　過去三科目試験（まとめ）
5	生理学　A総論
6	生理学　Ｂ筋
7	生理学　Ｃ神経
8	生理学　筋・神経まとめ
9	生理学　D感覚
10	生理学　Ｅ言語
11	生理学　Ｆ運動
12	生理学　Ｇ自律神経
13	生理学　Ｈ　呼吸
14	生理学　Ｉ循環
15	生理学　Ｊ血液・免疫
16	生理学　呼吸・循環・血液・免疫まとめ
17	生理学　K咀嚼，消化，吸収
18	生理学　Ｌ排尿
19	生理学　M排便
20	生理学　咀嚼，消化，吸収・排尿・排便まとめ
21	生理学　Ｎ内分泌
22	生理学　Ｏ体温調節
23	生理学　Ｐ生殖
24	生理学　Ｑ老化
25	生理学　まとめ　総論～血液
26	生理学　まとめ　総論～血液
27	生理学　まとめ　呼吸～老化
28	生理学　まとめ　呼吸～老化
29	解剖学　A総論
30	解剖学　Ｂ骨格系
31	解剖学　Ｃ筋系
32	解剖学　総論・骨格系・筋系まとめ
33	解剖学　Ｄ神経系
34	解剖学　Ｅ脈管系
35	解剖学　Ｆ内臓諸器官

36	解剖学　G感覚器
37	解剖学　H体表解剖
38	解剖学　I断層解剖
39	解剖学　J組織
40	解剖学　体表解剖・断層解剖・組織まとめ
41	解剖学　まとめ　総論～筋系
42	解剖学　まとめ　総論～筋系
43	解剖学　まとめ　神経系～組織
44	解剖学　まとめ　神経系～組織
45	運動学　A総論
46	運動学　B四肢と体幹の運動
47	運動学　四肢と体幹の運動まとめ
48	運動学　総論・四肢と体幹の運動まとめ
49	運動学　C動作分析
50	運動学　D姿勢
51	運動学　E歩行
52	運動学　F運動制御
53	運動学まとめ　総論～運動
54	運動学まとめ　総論～運動
55	運動学まとめ　動作分析～運動制御
56	人間発達学　A総論
57	人間発達学　B各期における発達
58	まとめ（解剖学・生理学・運動学・人間発達学）
59	定期試験
60	答案返却，解説
61	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　臨床実習Ⅳ（10 週）　）

学科名　　理学療法科

学年　　3　年

1　授業の内容

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践する。

2　到達目標

(1)専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけることができるようになる。
(2)対象者本人および他部門からの情報収集ができるようになる。
(3)安全性とリスク管理に配慮できるようになる。
(4)対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施することができるようになる。
(5)情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。
(6)得られた情報から問題点を抽出し、統合と解釈を行うことができるようになる。
(7)治療目標（ゴール）を設定することができるようになる。
(8)治療方法（理学療法プログラム）について立案することができるようになる。
(9) 理学療法関連業務を経験する。
(10)理学療法経過記録の作成、報告を経験する。

3　授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。なお、実習地に専任教員が訪問し実習状況を確認する。

4　成績評価方法

実習規定終了６０％・課題・学習記録２０％・実習経験シート２０％

5　評価の際の特記事項

既定の実習終了で６０点・課題・学習記録２０％・実習経験シート２０％
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6　授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート・実習教育者の課題・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法・理学療法治療学・

7　使用教材，教具

特に指定なし

8　学生へのメッセージ

理学療法士になるための最後の実習です。臨床実習Ⅲ期の経験を生かして、さらに自ら学ぶ姿勢を持ち理学療法士になる準備をしましょう。

9　教員氏名（　三根　立己　）

所　　属（　こころ医療福祉専門学校　理学療法科　）

実務経験の詳細（　病院にて理学療法士として勤務経験あり　）

１０　特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（　臨床実習Ⅳ）

回数	授業内容
	【実習期間】
	３年前期（５月～７月の期間で１０週間）
	【実習時間】
	１週間４５時間（実習地：８時間×５日＋自宅学修：１時間×５日）
	合計１０週間４５０時間（４５時間×１０週）
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する